



福山市【広島県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成29年度3月 ■ 人口：468,987人 ■ 面積：518km²
■ 担当課：福山市教育委員会文化財課（平成30年3月現在）



瀬戸内海の中央に位置する福山市は、古来より陸上・海上交通の要衝として政治・経済・文化の交流に大きな役割を果たしてきた。『瀬戸内の潮目に育まれた先進性と交流の気質、そして数々の困難を乗り越えてきた英知を伝える歴史文化』～人を育て、市民・地域で再発見し、守り、活かし、未来へ伝えよう～を基本理念にまちづくり・人づくりの推進を目指している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

古墳（群）、街道と海道、福山城と城下町
地場産業、戦災と復興

課題

- ・各地域の歴史文化の共有と一体的な取組
- ・少子高齢化などによって失われつつある文化財の継承

保存活用方針

- ・文化財の調査と価値の共有
- ・文化財の価値の顕在化とまちづくり
- ・文化財を守り、活かし、伝える仕組み・体制づくり

保存活用のための取り組み

福山の歴史文化講演会や文化財めぐりの開催

「捕鯨」や「能」、「備後簡草」など、地域ならではの歴史文化をテーマに、市内6地域で講演会を開催した。今後も継続的に講演会や文化財めぐりを行い、地域の歴史文化への理解を深めながら本構想に基づいた取組を推進していく。



地域住民による文化財エリアの整備・情報発信

二子塚古墳（史跡）や御領古墳群、堂々川砂留（登録有形文化財）や別所砂留など、地域住民によって整備され、守られている文化財が多数ある。地元小学生の課外学習の講師や、パンフレット及び動画の作成により、地域内外へ文化財の魅力を発信している。



未指定等の文化財の調査・研究（大学連携）

市内には、鞆町の沼名前神社にある秀吉ゆかりの能舞台（重文）のほか、江戸期に造られたとみられる福山藩ゆかりの能舞台が2つある。市内大学の建築学科の教授と学生が、建築年代や構造を調査し、約1年かけてCGと模型での再現を目指している。



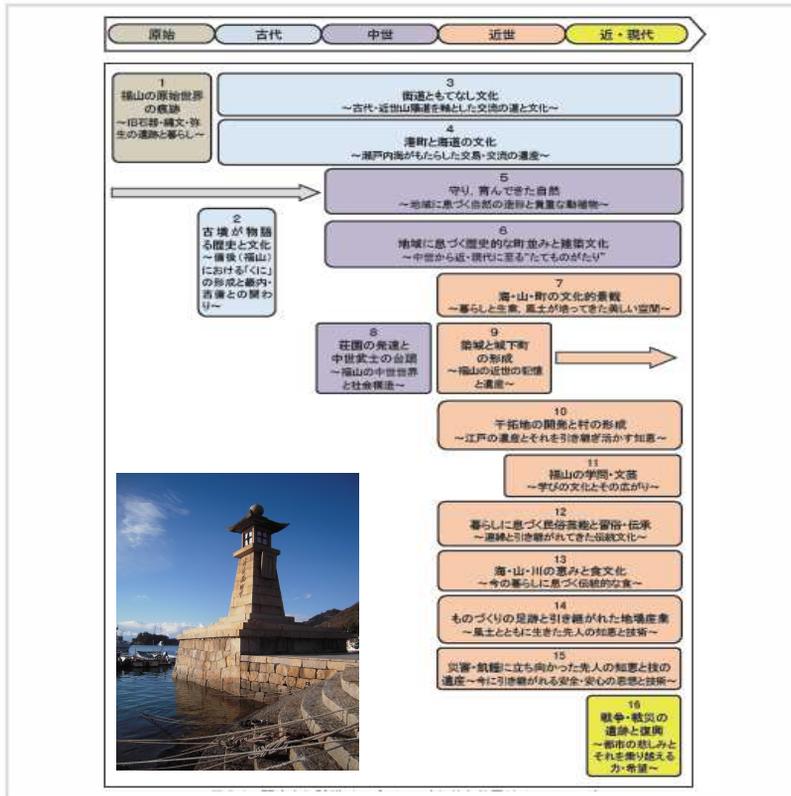
住民による未指定文化財の調査・報告書の作成

住民による文化財調査のモデルケースとし、また地域の未指定文化財へ意識を向けてもらうことを目的として、市内全域に分布する「辻堂」（建造物）、「地神」（石造物）の住民による現地調査を実施し、データ整理を行った。今後その成果を冊子にまとめる予定。





関連文化財群



本市の歴史文化を特徴付けるテーマ・ストーリーの構成要素となる文化財を継承性、関連性、公開性（活用性）等の視点から抽出し、一体性を考慮して関連文化財群を設定。

市民等の主体的な参加を促し、関連文化財群の掘り下げと見直しを行いながら、文化財をその周辺環境を含めて守り、生かす取組の展開をめざす。

ストーリー

- 1 遺産が物語る福山の黎明期のすがた
- 2 交易・交流の基盤と文化
- 3 自然と人工物の美と文化
- 4 中世武士の台頭と近世における福山藩の足跡
- 5 人材の輩出と学問・文芸
- 6 今に引き継ぐ暮らしと産業の文化
- 7 災いとそれに立ち向かってきた英知



策定後の成果（見込まれる効果）

① 市民等による取組の活発化

地域にある文化財の保存・活用及び発信を住民が実施する事例を周知することにより、他の地域へも活動が波及し、取り組みを実施する地域が増加している。今後、住民が主体となり自らの地域の文化財を守り、伝える事例をさらに広く市内外に発信することにより、市民等による文化財の保存・活用の取組の活発化を目指す。



② 地域の歴史文化の掘り起こし

平成34年に築城400年を迎える福山城をはじめとする、福山市内各地の歴史文化の掘り起こしを行い、市民一人ひとりが自らの地域の歴史文化への関心や愛着を持つよう情報共有や意識啓発に取り組む。併せて、市の歴史文化の価値及び魅力を高め発信することで、文化財を保存・活用する新たな担い手の確保・育成支援を行う。



③ 体制強化による施策の推進

限られた人材を有効に活用するため、人材の育成及び情報共有等による市内連携を強化し、文化財の保存・活用を推進する。また、事業実施の際には、様々な制度活用を検討し、併せて本構想に基づき優先順位を設定することにより、施策及び事業を効率的かつ効果的に実施する。

